

若竹

第 10 号

発行 愛媛県神道青年会
編集 広報部
印刷 原印刷(株)

昭和五十五年度新役員会務分担

昭和五十四年度 総会開催さる 新役員選出

第九回愛媛県神道青年会定時総会は、去る六月二十一日午後三時より、松山市道後「にぎたつ会館」に於て、神社庁より来賓を迎え、会員多数出席のもとに開催され、長曾我部会長、神社庁来賓挨拶に続き、昭和五十四年度決算、活動報告の承認を得た後、任期満了に伴う役員改選に移り、会長、副会長は前年度に続き再選となり、監事に田岡穆、日野諄二、事務局長には星野暢広、局員には柳原幸を選出致しました。

引き続き、昭和五十五年度活動方針、事業計画案並びに予算案が審議され、本年度より会期を中央の神青協に合わせ、年度末を三月末に変える事とし、新執行部も地区プロツクの活動に責任を委ねる事とし、東子が広報を、中子が事業を、南子が教化を各々受け持つ事になりました。総会終了後、懇親会には入りなごやかなうちに幕となりました。

神青会会報名決まる

かねてより思案中でありました、愛媛県神青会の会報名がようやく「若竹」と決定致しました。

実に神青の会報にふさわしい名前をつけて下さいましたのは、愛媛神青の生みの親でもあります、初代会長和田将信氏であります。

氏は現在、愛媛大学附属病院におきまして療養中でございますが、病をおして病床からの御投稿本当にありがとうございます。

会 長
長曾我部延昭



副会長
清 家 貞 宏



副会長
星 野 暢 広



事務局

柳 原 幸

事務所

〒791-41

松山市神田町1-7
三津殿島神社気付
でんわ(0899)51-1471

監 事

田 岡 穆 二
日 野 諄 二

理 事

南子	中子	東子
井関五十鈴 大野民之助 越智重安 本多 羊	井上忠央 田内逸和 柳原 幸	池内公和 矢野哲夫 越智静治 湊 照彦 田窪 久

会 計

でんわ	部 長	事 務 所
〇八九九八―二―一〇六〇	星野暢廣	伊予市稻荷一三三六

広 報 部

でんわ	委 員	部 長	事 務 所
〇八九八―二―一〇三六九	東子地区会員	田窪 久	今治市通町三一―四 吹揚神社

事 業 部

でんわ	委 員	部 長	事 務 所
〇八九九九―二―二〇二一	中子地区会員	井上忠央	北条市八反地 国津比古命神社

教 化 部

でんわ	委 員	部 長	事 務 所
〇八九五五八―二―八八八	南子地区会員	本多 洋	北宇和郡三間町土居中 住吉神社

昭和五十四年度活動報告

- 五十四年
- 六月十六日 役員会(和靈神社) 十八名
 - 六月十六日 第八回定時総会(和靈神社) 十八名
 - 六月二十一日 全国協議会定例総会(神社本庁) 会長副会長三名出席
 - 六月二十二日 全国協議会三十周年記念式典(明治記念館)七名出席
 - 七月 「視先のまつり」及総会資料を各会員に送付
 - 七月 会報第九号発行(広報委員会)
 - 七月 禊祿成会八月四日、五日は参加者少数の爲中止(教化部)
 - 七月 第八回四国地区氏青神青合同研修会(高松市)十二名氏青二名出席
 - 七月 四国四県神青禊祿成会(高知県高岡郡久礼八幡神社)七名出席
 - 七月 役員会(松山市) 初詣ポスター配布準備(神社庁)
 - 七月 研修旅行は参加者少数の爲中止
 - 七月 八幡浜八幡神社本殿遷座祭(神青有志助務及奏楽奉仕)
 - 五月十五年 新年互礼会(八幡浜八幡神社)十六名出席
 - 二月 八日 役員会(椿神社社務所)
 - 二月 二十四・五日 神青協中央研修会(新潟万代シルバートル)十名、星野出席
 - 四月 四日 のうそ太鼓松山演奏会(市民会館大ホール) 四国四県連絡会議(高知県神社庁)四名出席
 - 五月 役員会(神社庁)
 - 五月 役員会(公開)及研修会(平和郷於)出席十三名
 - 六月七・六日 神青協定例総会(神社本庁)出席正副会長三名

昭和54年度決算報告

(S 54.7~55.6)

歳入の部 (円)				歳出の部 (円)					
項目	本年度決算額	本年度予算額	増減△	備考	項目	本年度決算額	本年度予算額	増減△	備考
1 会費収入	358,000	460,000	△102,000	年会費56口 互礼会16名	1 会議費	176,900	250,000	△73,100	總會費9万 互礼会7万8千
2 助成金	150,000	150,000		神社庁	2 研修教化費	65,400	200,000	△134,600	北方領土募3万2千 研修助成費
3 寄附金	527,000	400,000	127,000	33件	3 事務費	49,400	70,000	△20,580	郵便代、振込料他
4 雑収入	23,623	10,509	13,114	金利5,123	4 備品費	0	10,000	△10,000	
5 繰越金	379,491	379,491			5 旅費	221,700	170,000	51,700	30周年7万、ブロック研修2万4千、地6万
					6 交際費	20,000	30,000	△10,000	
					7 事業費	219,990	200,000	19,990	ボスター15万 日の丸ステッカー
					8 広報費	54,860	150,000	△95,140	会報9号
					9 調査費	0	130,000	△130,000	
					10 負担費	180,750	100,000	80,750	30周年6万、ブロック3万、他
					11 雑支出	12,500	10,000	2,500	
					12 積立金	300,000	0	300,000	
					13 予備費	0	80,000	△80,000	
合計	1,438,114	1,400,000	48,114		合計	1,301,520	1,400,000	△98,480	
差引			136,594	S55年度へ繰越					

昭和五十四年度助成金・寄附金御賛者名(敬称略)

- 十五万円 愛媛県神社庁
- 十万円 松山市 椿神社(長曾我部勝宮司)
- 十万円 西条市 石鏡神社(十亀和作宮司)
- 五万円 大三島町 大山祇神社(三島安久宮司)
- 二万五千円 神社庁 宇和島支部
- 一万五千円 神社庁 北条支部
- 一万二千円 神社庁 小田支部 喜多支部
- 一万六千円 保内町 一宮博信(三島神社)
- 一万円 野村町 大石敦則(天満神社)
- 一万円 八幡浜市 八幡神社(清家貞雄宮司)
- 一万円 内子町 吉岡太郎(八幡神社)
- 一万円 西条市 十亀興美
- 一万円 松山市 石丸金吾(桑原八幡神社)
- 七千円 神社庁小田支部 六千円 長曾我部延昭(椿神社)
- 五千円 高市慶久 松浦文郎 伊豫稻荷神社 神社庁八幡浜支部 星野満広 矢野正実 高橋三郎 小池稜威雄 真鍋次郎 菅原醇 上甲源一 菊池文史 阿部廉夫 鎌田正行 阿部里光
- 三千円 神社庁西宇和支部 是沢美久雄

昭和五十四年度六月総会助成者名(敬称略)

- 五万円 和靈神社(三輪田宮司)
 - 三万円 八幡浜八幡神社(清家宮司)
 - 三万円 宇和津彦神社
 - 三万円 三島神社
 - 一万円 越智大介 鹿島神社(菊池宮司) 客神社(鎌田宮司)
 - 五千円 石岡神社(十亀宮司) 山城神社(和田宮司) 多賀神社
- その他のうそ太鼓賛助もありますが、紙面の都合上省略させていただきます。
- 本当に多大なる御協賛を頂きまして、重ねて厚く御礼申し上げます。

「神道青年全国協議会」

規模と概略

昭和五十五年度

神青協活動方針と及び

事業計画

「活動方針」

(一) 皇室、国家の尊厳を守り、道義的国体の護持の為、国民

精神昂揚運動の実践につとめよう。

(二) 青少年対策の推進と教育の正常化につとめよう。

(三) 自己研修の強化と組織の充実につとめよう。

「事業計画」

対外活動

(一) 第六十一回式年遷宮奉賛運動の実践

(二) 国民精神昂揚運動の実践

(三) 青少年対策と教育正常化運動の実践

(四) 緑化運動の実践

対内活動

(一) 組織の強化と充実

(二) 自己再研修の実践

(三) 健全財政の確立

神道青年全国協議会 昭和54年度歳入歳出予算案

歳入 自昭和54年7月1日 至昭和55年6月30日

科 目	子 算 額	前年度予算額	増減(△)	備 考
1. 齋 出 金	2,200,000円	1,539,000円	661,000円	
1) 会 員 齋 出 金	1,800,000	1,139,000	661,000	2,250名×800円
2) フ ロ ッ ク 齋 出 金	400,000	400,000	0	10ブロック
2. 助 成 金	630,000	680,000	△ 50,000	
1) 本 庁 助 成 金	480,000	480,000	0	神社本庁より
2) 特 別 助 成 金	100,000	100,000	0	篤志寄付他
3) 指 定 助 成 金	50,000	100,000	△ 50,000	
3. 事 業 取 入	100,000	100,000	0	
4. 諸 取 入	250,000	320,000	△ 70,000	年賀互礼広告料他
5. 過 度 収 入	5,000	5,000	0	
6. 繰 越 金	50,000	200,000	△ 150,000	
合 計	3,235,000円	2,844,000円	391,000円	

歳 出

科 目	子 算 額	前年度予算額	増減(△)	備 考
1. 神 事 費	20,000円	20,000円	0円	
2. 会 議 費	820,000	720,000	100,000	
1) 役 員 会 費	500,000	450,000	50,000	交通費改定による
2) 総 会 費	300,000	250,000	50,000	
3) 特 別 対 策 委 員 会 費	10,000	10,000	0	
4) 諸 費	10,000	10,000	0	
3. 教 化 費	1,120,000	820,000	300,000	
1) 中 央 研 修 会 費	600,000	300,000	300,000	事務費20万
2) 地 区 研 修 会 助 成 費	200,000	150,000	50,000	
3) 教 化 事 業 助 成 費	100,000	100,000	0	
4) 教 化 事 業 対 策 費	150,000	200,000	△ 50,000	
5) 友 好 団 体 関 係 費	70,000	70,000	0	
4. 庶 務 費	112,000	166,000	△ 54,000	
1) 通 信 送 費	80,000	110,000	△ 30,000	
2) 事 務 費	32,000	56,000	△ 24,000	
5. 交 際 費	30,000	30,000	0	
1) 会 長 交 際 費	20,000	20,000	0	
2) 諸 交 際 費	10,000	10,000	0	
6. 派 遣 費	230,000	190,000	40,000	
1) 地 方 派 遣 費	150,000	150,000	0	
2) 旅 費	80,000	40,000	40,000	
7. 書 記 報 酬	352,000	352,000	0	
8. 出 版 費	421,000	421,000	0	
1) 機 関 紙 費	260,000	260,000	0	
2) パ ン フ 費	60,000	60,000	0	
3) 友 好 団 体 等 出 版 買 上 費	5,000	5,000	0	
4) 諸 費	96,000	96,000	0	
9. 雑 費	30,000	25,000	5,000	
10. 子 備 費	100,000	100,000	0	
合 計	3,235,000円	2,844,000円	391,000円	

「神道青年全国協議会」

(参) 昭和五十四年度歳入歳出予算案

(注) 会計事務簡素化の為庶務費中、備品費・消耗品費・諸費を統合し、事務費とした。

四国地区神青氏名

合同研修会に参加して

護国神社 上森 一義

今回の研修会テーマは「教育の正常化と国防問題」であり、八月十六・七日、高知市丸之内会館で開催された。講演は、高知大豊町、立川小学校校長・高橋正先生、本庁学務部長・浜田進先生、京都産業大学教授・三好修先生、皇学館大学学長・田中卓先生の順に話された。

高橋先生の高知県下の教育現場からの報告に我々一同は驚いた。教育予算も教員配置（教員一人の受持生徒数が平均十八名）も四国で一位なのに、学力は最低という事であり、原因は日教組の偏向教育がまだ続いていることであると説明された。浜田先生は、全国的にみて革新県政ではどこも皆、教育効果がなくマイナス面ばかりが出ているのが実態である。今こそ、神社界が、正常化の為に立ちあがる時であり、先ず、家を正して、氏子とともに協力して運動を展開すべきである。と力説された。田中博士は、日教組が静かになり安心できない。今は潜伏しているものであり、次にどう出るか、まったく危険な状態であつて、今から三十年をかけて日本教育をやり直すべきである。その為には、教育基本法を先ず改正（改正点の要旨は配布された）することが先決と思う。このままでは本当に亡国になります。と愛国の熱情を吐露されて、一般の人々も入場して超満員の会場は大感動の拍手がしばしばまなかつた。三好先生の防衛論は、国際戦略からみて日本の防衛領域はペルシヤ湾まで入る。現国力GNPからみて自国防衛の力はあるのだ、と講義された。

神青氏青の全体会、自由討論会では、星野暢広氏から中央研修会の報告。討論会では各県活発な意見、問題が出された。が、しかし「教育・国防」の討論が無く、青年神職

こそ、この問題を国際的視野にたつて、広く深く学習してゆかねばならぬ秋であると痛感した次第であります。



会長就任によせて

会長 長曾我部 延昭

去る六月二十一日の定例総会に於いて、三役留任との事で、来春三月末日迄会長職を務める事と相成りました。執行部を代表致しまして皆様方に一言御願いやら、御報告を致したいと思ひます。

去る六月の全神協総会に於いて、次年度の中央研修会を、四国又は北海道にて開催していただきたいとの要望を、中央執行部より提案があり、前々年、前年と東日本で相次ぎ開催した関係上、又、西日本各地からも、是非四国で、との要請もありました事から、思慮に思慮を重ねました結果、来年度は四国にてお引受けする事になった次第でございます。

御承知の如く中央研修会は、私共単位会の上部組織である、全国神道青年協議会の主催する研修会である為、四国ブロックとしては、事務的な世話、経済負担等、縁の下の力持的な存在でしかなく、特に愛媛県に於いて開催する関係上、程々御負担をお掛けする事と存じますが、会員諸兄

の温かい御協力を賜わり成功させていただき度くお願い致します。

次に我単位会内に於いて、活発な活動を示しております、東予地区の十六夜会に次いで、中予地区でも二十日会が誕生致しました。内訳については、次号で何らかの報告があるものと思ひますが、現在の所、事業部長の井上忠央氏の御世話にて九月二十日を初回とし、毎月二十日午後七時より九時迄を開催予定としております。

南予地区の発奮を心待ちにしております。愛媛県は地形の関係も有り全員が集う機会も少なく、この地区各の集いを重ねられ、研鑽される事が最も良い方法であるように思われます。

先の四国ブロック研修会の席上、講師の先生より、興亡

についての話が有りました。五十年前以前世界の港にユニオンジャックの国旗を見ぬ日は無かつたが、現在のイギリスを見て、此の国の様になろうと思う国はありますまい。又、現在のアメリカの繁栄が半永久で有ると思う人もいないだろう。何故ならアメリカにおける人口比率はいずれ、白人七割、黒人三割が逆転するであろうから、等々、歴史上の百年は時の内ではありません。日本の社会に於いて、現在神社の在る位置、役割、目的等を直視し、私達青年神主は今興る為は何をすれば良いのか。少なくとも、小さくても良いのではないのでしょうか。各自が指針と成る何かを、次回の中央研修会で感じる事が出来れば大成功だと思ひます。会員諸兄の御協力、御支援をよろしくお願い致します。



昭和五十五年度事業計画

五十五年

七月 六日 役員会

八月 八日 中央研修会打合せ(高知)

中旬 各部会年間計画書提出(事務局へ)

三月 七日 夏期研修会 神社庁中子連合研修会に合流(教化部)

七月 第一回中央研修会準備委員会

八月 六日 第九回四国地区神青氏青合同研修会(高知)

三月 四日 雅楽講習会(神社庁主催)(教化部)

九月 会報発行(広報部)

九月 六日 四国地区稷錬成会、美川村河崎社(教化部)

九月 初詣ポスター製作準備(事業部)

十月 初詣ポスター配布(事業部)

十一月 初詣ポスターアンケート調査(事業部)

十二月 研修旅行(教化部)

会報発行 中央研修会告知版(広報部)

地区ブロック忘年会

五十六年 新年互礼会、地区ブロック新年会

一月 各部会中央研修会準備会

二月 役員会及中央研修会準備委員会

三月 中央研修会全国大会

昭和五十五年度各部予算書

(円)

教化部	
1. 研修教化費	160,000
2. 研修旅行費	30,000
3. 雑費	90,000
合計	280,000

(円)

事業部	
1. 印刷費	180,000
2. 調査費	10,000
3. 雑費	60,000
合計	250,000

(円)

広報部	
1. 印刷代	90,000
2. 郵送費	45,000
3. 雑費	40,000
合計	175,000

昭和55年度予算案 (S55.7~56.3)

(円)

歳入の部				歳出の部			
項目	本年度予算案	昨年度予算額	増減	項目	本年度予算案	昨年度予算額	増減
1 会費収	460,000	460,000		1 会議費	250,000	250,000	
2 助成金	150,000	150,000		2 研修教化費	280,000	200,000	80,000
3 寄附金	635,000	400,000	235,000	3 専費	250,000	200,000	50,000
4 雑収入	13,406	10,509	2,897	4 調査費	10,000	130,000	△ 120,000
5 繰越金	136,594	379,491	△ 242,897	5 広報費	175,000	150,000	25,000
				6 専費	50,000	70,000	△ 20,000
				7 備品費	10,000	10,000	
				8 旅費	100,000	170,000	△ 70,000
				9 交際費	20,000	30,000	△ 10,000
				10 負担金	100,000	100,000	
				11 雑支出	20,000	10,000	10,000
				12 子備費	130,000	80,000	50,000
合計	1,395,000	1,400,000	△ 5,000	合計	1,395,000	1,400,000	△ 5,000

以上歳入歳出合計差引残額なし

当県開催を控え

神青協中央研修会とはいかなるものか

「前年度研修会要綱」

一、期日 昭和五十五年二月二十四日、二十五日

一、会場 新潟市「万代シルバールホテル」

一、主題 「神道と稲」

一、主旨 神青協創立三十周年を契機として過去三十年の歩みをふまえ、その反省と評価に立脚し、この混迷せる社会情勢に即応した運動の展開が試みられなければならない。その為には、神社神道の根幹であり且つ悠久なる祖国の伝統の基盤である「稲と神道」の問題を再認識することにより、今後我々がなすべき活動の指針としたい。

以上の主旨に於て、北陸ブロック特に新潟県の各神職方の手厚い準備と歓迎により、一泊二日の予定で二十四日、午後一時の受付に始まり、開会式、講演、分科会、夜には入り懇談会、二日目朝食の後講演、全体会議、レポート作、閉会式と無駄の無い時間設定で参加人数二百名諸会員も有意義な二日間の研修を終えたようである。

特に講演では、食糧問題や米に伝わる精神的な歴史等に重点が置かれ、分科会では「現代と新嘗祭」「食糧危機と稲」「都市と農村の稲への認識」のテーマから活発なる討論が交わされ、一見一聞するのに簡単なテーマの様にも見受けられるが、探究すればする程逃避してしまふようなテーマでもある。全体会では次の様な要点が確認されている。

- 一、神道における稲の意味の重さ。
- 一、食糧自給率を将来に向けて上げていくこと。
- 一、農業用地確保の必要性。
- 一、祈年祭、新嘗祭の問題点。
- 一、農業形態の変化による作物への愛着の低下。
- 一、都市近郊の田圃の減少。

これぐらゐの要点で納まりきれぬものではないが、非常に広い視野からの研究が必要なる事。そして、その時点で神職はどのような行動を取るのか。次回松山開催に期待されるもの、解明さるべきものへの期待は大きい。実りある研修会にすべきには、一体どうしたら良いのか

各種研修・講習会相次ぎ開かる

夏祭も終り一息入れる間もなく、夏期研修会が各地で開催されました。七月二十六・七日は中予連合研修会が、八月には入り、暑い日射の照りつける中、高知県遺族会館に四国四県の神青・氏青を集めて講演会を主体に二日間の日程で、同じく八月の二十三、四日は神社庁主催のもと、郵便会館にて雅楽・祭式の講習会が、一方深山きわまる美川、河崎神社に於ては四国四県練成会が、相次いで開かれました。

中でも高知で行なわれました、四国地区合同研修会には当県からはお盆にも拘らず十二名が参加し、他県との親睦を大いに深めました。又神社庁主催の雅楽・祭式講習会には今治、越智郡の若手神職で構成する「十六夜会」諸士の多数参加が目立っております。



各ブロック勉強会

甲・乙(雅楽)乙丙午乙

○每週金曜日 午後七時 場所 阿沼美神社

松山 でんわ ○八九九二一八七三二

田内逸和

○每週水曜日 午後七時 場所 愛媛県護国神社

松山 でんわ ○八九九一七二一四五

都子野清彦

○每週木曜日

今治 でんわ ○八九八二二〇三六九

十六夜会 田窪久



年中行事と日本たべもの総覧

(年中行事)

年中行事ということばが使われ始めたのは、中世以降からで、それ以前はこれに該当することばはなく、節、折目ということばで、季節毎に生活のけじめをつける特別な日を表現した。この日は農獲や平安を祝う晴れ(ハレ)の日でもあった。徳川時代になると年中行事とは、神社の祭祀に関係のある日とその催しを意味するようになった。行も事もともとと祭りを意味することばである。現在では年ごとの日に繰返される、地域や集団ごとの生活習慣をも含めて年中行事とよぶが、本質的には伝統性の強い信仰儀礼や習慣の行事を意味しており、日本人の季節感、信仰のあり方、生産と生活との関係などを探るうえでの重要なポイントである。

(白米食)

日本では昔から五穀の中に米が必ず含まれている。現在でもモンスーン地帯を主として世界の三分の一以上の人々が米を主食にしているという。もともと、古代の日本人が全て米を食べていたわけではなく、一般人は他の穀物を多く食べていたに違いない。しかし栄養価が高く美味な米を多産するため、灌漑や品種改良などさまざまな努力の結果、多くの人の口に入ることになり、品質もいちじるしく向上した。さて飯は、元来強飯(こわめし)、すなわち蒸

した米飯の事であったが、平安時代から炊飯が普及した。現在強飯と云えば(もち米)を用いるが昔の平常食の強飯は(うるち米)であった。江戸元禄時代より一般の人々も次第に白米を口にするようになった。白米とは玄米を白くつき上げたもので精白米とも呼ばれるが、ついて除くヌカと共にビタミンBが失われ、白米食を常用すると脚気(かっけ)になりやすく、ビタミンB欠乏症におちいりやすい。この症状を(白米病)とも云うが、白米食の際は、副食にビタミン類を取るよう心がけることが必要である。(五穀には米麦黍粟大豆をあげる場合と米大麦小麦大豆小豆をさす時がある。)

原稿求む

当編集局では神青の方、あるいは神青に限らず幅広い意見を求めています。

奉仕神社の事、日常生活の中で考える事、神道青年会あるいは現神社界に対する要望、意見、いろいろな体験談、旅行記、社務に関してわからない事への質問、境内の動植物観察記、和歌や俳句、何でも構いません。

投稿欄を広く活用し皆様方一人一人の力によって形造られる会報となるべく、努力する所存でございます。どうか皆様各位の厚い御支援と御協力をお寄せ下さいませ。尚、投稿記事の字数制限は致しませんので、原稿用紙でなくともハガキや半紙で結構です。

原稿切日は発行日前二十日と致しますので、次号の原稿切日は十月二十日とさせていただきます。

教化部より

九月二十四日頃予定致しておりますが、舞楽の講習会は日程の都合がつかない為、後日に延期させていただきます。御了承下さいませ。

事務局より

会費未納の方は近くの理事にお支払い頂くか、或いは直接会計迄お送り下さい。